



AFS Matsue

支部だより「だんだん」拡大エリア版

発行：2018年3月31日

<第108号>

編集・発行

(公財) AFS日本協会 松江支部

【CONTENTS】

【寄稿】島根県立横田高校

高校魅力化コーディネーター 長谷川由樹

☆2017年間受入留学生手記

Pichabhorn Yuthawongsuk (タイ・横田高校)

Nikkie Bendtsen (グリーンランド・隠岐島前高校)

Ronja Angela Bigger (リテンシュタイン・開星高校)

☆第63期派遣生帰国報告

長嶺 萌 (フィンランド派遣・津和野高校)

蒼座直斗 (ブラジル派遣・開星高校)

☆第64期ボリビア派遣生保護者通信

庵野さゆり (鹿足郡吉賀町)

【The Brief 2017 支部活動報告】

【寄稿】

異文化に触れ 学び合う機会

島根県立横田高校

高校魅力化コーディネーター

長谷川 由樹



横田高校に10か月間留学していたエイミーが島根を発つ日、空港にはホストファミリーをはじめ、横田高校の地元の生徒も大勢見送りに集まった。高校生で日本という異国にたった一人であって1年間過ごすということは、どれほどの寂しさや困難を伴う挑戦だろうか。様々な壁があったと察するのだが、彼女はいつも気丈に振る舞い、勉学にも熱心に励み、壁を壁と思わず楽しんでいるように見えた。その姿は、地元の生徒だけでなく、教職員やホストファミリー、地域の方々にも大いに刺激を与えるものであった。

奥出雲町及び横田高校では、横田高校魅力化プロジェクトの一環で、県外からも入学生を受け入れている。横田地区はそろばんの産地であり、古くからそろばんを通じたタイとの交流が続けてきたが、近年は交流することが難しい状況にあった。そんな中、AFSを通じてタイからの留学生を受け入れることになり、再び交流を始めたということでも地域の方の話題にもなっていた。

エイミーは英語が堪能で、流暢な英語で母国タイについて生徒の前でプレゼンテーションをしてくれたこともあった。さらに、日本語を学びに日本に来たということで、生徒からは驚きの声が。

「私たちは英語を勉強するだけでも精一杯なのに、エイミーは日本語の標準語だけでなく出雲弁まで話せるようになってきた!」「僕もいつか外国に行って、外国に友達を作りたいな。」英語の授業で、エイミーが生徒に英語を教えることもあったという。一方で、エイミーは「横田高校に来て一番驚いたのは、いつでもみんな挨拶をすること。小さな町で皆知り合いという雰囲気が、安全でアットホームで心地よかった。」と話す。生徒たちは、国と国との境を越えて互いに尊敬し合い高め合う、ということを実感しているかのようだった。



綿菓子に初挑戦 (横田高校)

奥出雲には、塾や英会話教室もあるが、自ら進

んで行動しなければ、日常生活で英語を使うことはめったにない。英語だけでなく、異文化に触れる機会も見るととても少ない。しかし、異文化は必ずしも海外だけにあるのではなく、実は日本の中でも異文化はあると考える。県外出身の入学生を積極的に受け入れているのは、異なる出身地の生徒の多様な価値観と出会い、視野を広げて協働する力を育成するためでもある。海外から留学生を受け入れるということも、言語や文化の違いこそあれ、目的はこの延長線上にあるのではないだろうか。

奥出雲にいながらにして異文化に出会える機会を、留学生と共にこれからも創っていききたい。



お別れ会に集まった懐かしい顔、顔（奥出雲町）

2017年間受入留学生の手記から

2017 春年間

☆ ホストファミリーと友とたくさんの思い出

Pichabhorn Yuthawongsuk エイミー
(タイ・県立横田高校)

私はピチャーボンユタウオンスックと申します。タイから来ました。10 か月間日本に住んでいました。島根では三つのホストファミリーに住んでいました。最初は1週間安来市に住んでいました。安来市の米原ファミリーでは、私は毎晩温泉に入りに行きました。とてもいい経験だと思いました。

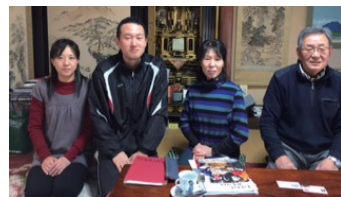


米原ファミリー

そして学校が始まる前に、私は奥出雲町に住んでいました。そのホストファミリーは、長谷川家でとてもあたたかくて、親切な家族でした。おばあさんは毎朝早く起きて、美味しいお弁当を作ってくれました。私は帰国する前におじいさんとおばあさんが、私に素晴らしいアルバムを作ってくれて本当に嬉しかったです。お母さんは私に、いつも日本語を教えてくださいました。お母さんのおかげで、私は日本語がずいぶんしゃべるようになってきました。お父さんにあまり会わなかったけど、会う時はいつも一緒にラーメンを食べました。私は6月から、新しいホストファミリーに住みました。新しいホストファミリーは、鐵池（かないけ）家です。鐵池ファミリーは、とてもあたたかくて親切な家族でした。おばあさんはいつも食事を作ります。私は太ります。おじいさんはいつも、学校から家までむかえに来てくれました。お父さんも家から学校まで送ってくれました。お母さんは毎朝美味しいお弁当を作ってくれました。



今私が留学している横田高校は、けっこう小さい学校で生徒は250人しかいません。私は2年2組で勉強していました。私のクラスメートは皆とても話しやすく親切でした。私はここに親友がいます。私はその友といつも映画を見たり、遊びに行ったりしました。私はここに来てたくさんの思い出ができて本当に良かったです。



長谷川ファミリー



鐵池ファミリーとエイミー

☆島の人みんなやさしかった

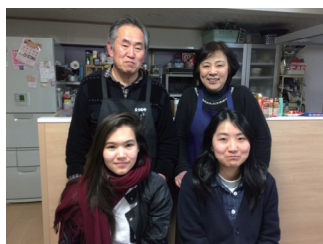
Nikkie Bendtsen ニッキー

(デンマーク領グリーンランド

・ 県立隠岐島前高校)

日本に来てたくさんのけいけんがありました。たとえば、文化祭です。私のクラスはホラー映画とゲームルーム、トランプやオセロをしました。私の仕事は飲み物をみんなにあげることです。「飲み物はいかがですか」と言うのがむずかしかったけど、楽しかったです。キンニャモニャまつりで友達のピンク色のゆかたをきました。友達とお店をあるきました。1年生といっしょにおどりをおどりました。みんながたのしそだったから、私はうれしかったです。そのあと花火をみました。きれいでした。

島の人みんなやさしくて、おもしろいです。たとえば、りょう(寮)から遠い所にいる時に、島前の人は車で私をりょうまでのせてくれました。さいしょはびっくりしたけど、あとでまた、車にのせてくれる人にであつたらいいなって思った。みんながたすけたから、私ももっとたくさんの人をたすけたいです。AFSのおかげで、この1年間留学できてうれしかったです。ありがとうございました。



近藤ファミリーとニッキー



フリソデ!!



Christmas Party in 西ノ島!

☆いろんな国のともだちをつくりたい

Ronja Angela Bigger ロンニャ

(リヒテンシュタイン・開星高校)

はじめて日本にきたとき、だれもがみんなしたしみやすくわたしとお話ししてくれました。私がミスをしたときも、わざわざにはげましてくれました。

ホストファミリーは、日本語で私をたくさんてつだってくれて、日本の文化をたくさんおしえてくれました。たくさん日本食もちょうせんしましたが、どれも大好きです。

私の日本語はじょうずじゃないけれど、みんな私とお話ししてくれて、とてもかんしゃしています。

ホストスクールは、友だちができて学校に行くことがとても楽しいです。日本の友だちだけではなくて、いろいろな国の友だちを作りたいです。

日本で大きな思い出ではないけれど、たくさんの小さい思い出があります。たとえばAFSの旅行です。ひとつは、ほかの留学生と鳥取の大山にのぼったことです。大山けんしゅうは、ノルウェーの友だちとなかよくなり、たくさん話したり、わらったりしました。大山をおりたとき、道にまよってしまいましたが、AFSのスタッフがすぐに見つけてくれて、ホテルまでつれていってくれました。夜にはキャンプファイヤーをして、みんなといっしょにゲームもしました。次の日は、森の中をあるき、すてきな写真をたくさんとりました。そのあと水のこうじょうをけんがくしました。

鳥取の留学生にまた会いたいけれど、ふたりは2月に帰国してしまいます。でも、ずっとれんらくをとりたいです。

もうひとつは、エイミーといっしょにニッキーにあいに隠岐へ行ったことです。隠岐ははじめて行きました。私はとても楽しみにしていました。隠岐についたときは少しつかれました。松江から隠岐まで3時間もかかったからです。でも隠岐は

派遣生 帰国 報告

☆留学生生活を振り返って

第 63 期夏組年間派遣生（フィンランド）

長嶺 萌（県立津和野高校 2 年）

私は小学生の頃から海外に興味を持ち、中学生の頃には高校で留学するというのが夢になっていました。そして、ついに高校生になってフィンランドへ留学することが決まり、2016 年 8 月から 2017 年 6 月までの 10 か月間をフィンランドで過ごしました。今思えば、フィンランドにいた 10 か月間は「夢」だったのかなと思うぐらい一瞬の出来事でした。辛いことも、苦しいことも、日本に帰りたと思うことや、学校に行きたくない日もありました。しかし、泣いてしまうこともたくさんあったはずなのに、全てがいい思い出で、留学して本当に良かったと今でも思っています。

ワクワクと少しの不安から始まった私の留学生活は、想像していた以上にうまくいがないことの連続でした。コミュニケーションの難しさや言語の壁、特に留学前に英語やフィンランド語をあまり勉強していなかった私にとって「話す」ということが 1 番大きな壁でした。ですが、そんな私の話を、ゆっくりでも間違っていないでも最後まで笑顔で聞いてくれたフィンランド人の優しさに触れた時、大きかった壁が小さく見え、少しずつ話せるようになっていきました。話すということは自分を表現する、伝えるということです。日本ではわかってもらえるのが当たり前だったので、話すことや伝えることの大切さを気づけなかったのだと思います。こんな私を受け入れてくれたフィンランドの友達、留学生仲間、そして何よりホストファミリーには本当に感謝しています。

留学した 10 か月間、自分の少しの勇気と周りの支えのおかげで成長することができました。私にとって 17 年間生きてきた人生の中で最も濃い 10 か月でした。この 10 か月がなかったら、今の私はいません。日本にいたら絶対に得ることのできな

とてもけしきのうつくしいところでした。ニッキーは隠岐にすんでいて、ニッキーの学校のりょうに行きました。ニッキーとあったのは、このときがはじめてでした。私はニッキーとエイミーが大好きになりました。

もうひとつ楽しかったことはカラオケです。はじめて行きました。ほかの人の前で歌うのはとてもはずかしかったけれど、みんながおうえんしてくれたので歌えるようになりました。カラオケはとても楽しいです。



前川ファミリーとロンニャ



左上：菱浦港（海士町）

左下：隠岐神社（海士町）

右上：隠岐國学習センター（海士町）

右中：国賀海岸（西ノ島町）

右下：島前内航船「いそかぜ」

いもの、気づくことができないことに気づきました。この経験をいかし、これからはいろいろなことにチャレンジする勇気を持ち続けたいです。



リエクサの湖畔にて（2016年10月）

☆留学は自分を見つめ直す時間

第63期夏組年間派遣生（ブラジル）

蒼座 直斗（開星高校2年）

僕は、2017年の2月から2018年の1月までの約11か月間ブラジルに留学してきました。

ブラジルの気候は、年中暖かく夏は30度を軽く越えるようなイメージでしたが、派遣された地域は、ブラジルの北部でした。標高が他のところよりも高いところに街があったので、思ったよりも過ごしやすい街でした。

1年間滞在していた所は、馬を移動の手段や仕事のために道路を走らせていたり、道路の舗装がされていない所がたくさんあったり、シャワーから水しか出ないことも多々あり、驚くことがたくさんありました。いろんなトラブルを経験して、少しタフになれた気がします。

地元の高校に通っていた初めは、言葉も分からなくてすごく不安だったけど、学校の人達はみんなとてもフレンドリーで、たくさん話しかけて来てくれてすごく助かりました。話しかけて来てくれるのですぐに仲良くなれたし、それによって早

くポルトガル語を覚えたい、と思う気持ちが強くなりました。学校に通っていてびっくりしたことは、先生が普通にタトゥーを入れていたり、髪型やピアス、タトゥー、服装などのルールがほとんどないことでした。

ホストファミリーは、お父さんとお母さんと兄の3人暮らしで、姉は大学に通っているため、あまり会うことは出来ませんでした。お父さんはレストランを経営していて、そのレストランにほぼ毎日学校が終わったあとの昼ごはんを食べに行っていました。お母さんは地元の大学の生物の先生でした。兄は高校3年生で同じ高校に通っていました。彼は身長が190cmもあり、とても大きかったです。兄とはとても仲良くなれて、いろいろなことをサポートしてくれてすごく助かりました。この家族で1年間過ごせてとても幸せでした。

ブラジルの学校は午前中で終わるので、午後の時間はサッカーに通ったりしていました、学校には部活というものがほとんどなかったのも、地元のクラブチームの練習に参加させてもらい、週に3~4回練習させてもらいました。外国の人とサッカーするのは初めてで、黒人の選手のタフさにはとてもびっくりしました。日本人と全く違う考えを持っている人がたくさんいて、とてもいい経験になりました。

この留学で日本を離れて日本の良さを知ることができ、自分を見つめ直す良い時間になりました。この経験を忘れずにこれからの人生に生かしていきたいと思います。



ビトリアダコンキスタにて（2017年12月）

派遣生保護者通信

庵野 さゆり（鹿足郡吉賀町）

第64期ボリビア派遣、県立吉賀高校2年生庵野春花の母です。

娘の留学も残り5か月をきりました...あつという間ですね。どんな顔で帰ってくるのかと、とても楽しみです！

そんな私も、最初は心から応援はできませんでした。もし何かあったらどうしよう...すぐ会えないし...。と、いろいろな思いで複雑でした。一方で、「どこの国にしようか！」「スペイン語圏がいい！」とワクワクしている娘を見ていると「日本にいたって事故にあうこともあるし、一年なんてあつという間に過ぎるはず」と自分に言い聞かせて心の整理をしました。そして出発の時には、「しっかりがんばって!!」と言うのが精一杯でした。

ボリビア到着3日後、

『すごく楽しい！母さんも日本で楽しんで』と、きたメール。それまで心配でたまらなかったのですが、「そうね！娘も向こうで充実した日々を過ごしているのなら私も意味のある毎日を送ろう」と決めたのでした。



コパカバーナにて
(2017年10月)

時々送られてくるキラキラとした笑顔の写真は私たちにとって、元気の源でした！笑ったり、涙を流したりと、とまどいもたくさんあることと思いますが、すべてが、娘の血や肉になっていると信じています。

娘の留学は、本人はもちろん素敵な体験になっています。そして、私たち親の心も豊かにし、世界を広げてくれます。ありがとうございました。



今ホットなウユニ塩湖 (2017年11月)

The Brief 2017 支部活動報告

《2017 春年間受入生到着》

3月25日、春年間受入生のエイミーとニッキーの2人が出雲空港に到着。県内各地域でホストファミリー等との生活が始まりました。

《留学生歓迎会》

4月に松江市、奥出雲町、海士町で留学生歓迎会が開催されました。



留学生歓迎会（松江市）

《体験学習 in MISATO》

邑智郡美郷町で5月3日から2泊3日の体験学習を行いました。「くじら窯」では、ろくろを使ったコーヒークップづくりや、絵付けにチャレンジしました。また、神楽の色彩鮮やかな三江線の電車にも乗り、まばゆいほどの新緑を満喫しました。

最終日には、世界遺産の石見銀山を訪問して、自然と調和した鉱山の歴史を学びました。

ろくろ体験（美郷町）



JR三江線宇都井駅
（邑南町）



石見銀山世界遺産センター（大田市）

《2016 秋年間受入生お別れ会》

6月24日パトリシア（スイス）の送別会を松江市で行いました。留学生から、お世話になった小野、小田、米原ファミリーへ感謝の手紙を送りました。7月9日の米子空港出発には、開星高校の先生や生徒の皆さんが多数集まり、パティとの別れを惜しみました。元気でね！

宍道湖畔の
レストランで



《2017HIROSHIMA 平和学習》

“広島から平和を考える”をテーマに8月17日から2泊3日の日程で開催された「2017 HIROSHIMA 平和学習」（AFS 広島支部主催）に留学生エイミーとニッキーが参加しました。被爆証言の聴講、平和記念施設の視察、市内散策、ディスカッションなど平和学習事業に参加した2人は、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を目指す被爆地ヒロシマとを思いを一つにしました。



広島平和公園にて平和を誓う留学生
（広島支部提供）



エイミー



ニッキー

《2017 秋年間受入生到着》

8月20日、秋年間生ロンニャ（リヒテンシュタイン）が出雲空港に到着。前川ファミリーとの生活が始まりました。10月8日松江市で留学生ロンニャの歓迎会を開催しました。



留学生歓迎会
（松江市）

《留学説明会》

9月9日県教育委員会主催留学説明会に AFS 松江支部から支部長とロンニャが参加しました。

《隠岐ユネスコ世界ジオパーク研修》

10月16日から1泊2日で隠岐郡海士町、西ノ島町で研修を行いました。海士町では隠岐神社や明屋海岸等を見学し、夜は「隠岐しぜんむら」で自然体験インストラクターの福田貴之氏を講師に隠岐ユネスコ世界ジオパーク認定までの経緯、隠岐独特の自然、文化、人々の生活等について詳しく学びました。台風襲来で2日目の日程を短縮したのが心残りとなりました。



隠岐しぜんむらでの学習会

《大山登山》

恒例となった大山登山(AFS 鳥取県支部主催)が9月23・24日に実施され、ロンニャが参加。秋の風景を楽しみながら大山頂上を目指し、全員が無事登頂しました。



頂上で味わう達成感！（鳥取県支部提供）

《派遣生選考試験》

10月1日2018年間派遣生選考試験を松江市で実施し、イタリア派遣生1名を決定しました。

《津和野研修》

1月20日から1泊2日で鹿足郡津和野町にて研修を行い、留学生エイミーとロンニャが日本遺産「津和野百景図」と関連施設を見学しました。

《表敬訪問》

1月29日留学生エイミー、ニッキー、ロンニャそしてブラジル留学から帰国した蒼座直斗さんの4人が藤原孝行副知事を表敬訪問しました。藤原副知事から、「留学で得た体験を今後に活かし、広く世界に島根のことを情報発信してほしい」と激励をいただきました。



藤原副知事を表敬（1月29日島根県庁）

《2017 春年間生お別れ会》

松江市、奥出雲町、海士町で留学生のお別れ

会が開催されました。隠岐島前高校では、留学生ニッキーのための修了式が挙行され、全員で記念写真を撮った後、胴上げで留学生が宙を舞う一幕も。2月3日出雲空港出発では、ホストファミリーやホストスクールの友達や先生方など多数お集まりいただき、別れを惜しみました。皆様、本当にお世話になりました。



修了式
（隠岐島前高校）

宙を舞う
ニッキー！



出雲空港出発、
元気でね！
（2月3日）

（編集後記）

2017年は台風の襲来で夏の美郷研修や秋の隠岐研修等が次々と中止になり、日程調整に追われました。

感受性の豊かな10代の10か月を海外や島根県で過ごしたAFS留学生が、今後どんな活躍を見せてくれるか楽しみです。ホストファミリーはじめAFSボランティア活動を支援くださった多くの方々に心より感謝申し上げます。

松江支部長 田邊和佳子

「家族で世界とつながろう！」
ホストファミリー募集中！

我が家で、近所で、異文化体験

詳しくは <http://www.afs.or.jp/>

発行（公財）AFS 日本協会松江支部

支部長 田邊 和佳子

090-8564-6517 w-tanabe@afs.or.jp